

盛り場空間とフーズクの立地パターンについて*

Thoughts for the relationship between obscene facilities and popular night entertainment area*

大矢正樹**

By Masaki Oya**

はじめに

「風にはげしく揺れる薄明かりを通して街々に売春の灯がともる¹⁾」とかつてフランスの詩人うたったように、都市の盛り場と売買春との間には密接な関係があった。ヴァルター・ベンヤミンは、「住民が大衆化してはじめて、売春は都市の広範な地域に散らばってゆける。そして大衆こそがはじめて、セクスの客体が無量の魅力を発散すると同時にみずからその魅力に酔うことを、可能にする²⁾」と、都市の成立による大衆の存在こそが売買春成立の基礎であると述べている。わが国では、1958年の売春防止法完全施行以降「遊郭」は姿を消し、いわゆるフーズク店³⁾、⁴⁾として変容することによってのみ存在が可能となった。本稿では、盛り場空間とフーズクの位置関係、すなわちフーズクの立地パターンについてみていくこととする。

1. フーズクの立地パターン

(1) 盛り場空間とフーズク

盛り場のイメージは人によって様々であるが、デパート・ブランド店等からなるショッピング空間（ハレの空間）、飲み屋・ゲームセンター等からなる歓楽街（ケの空間）、その周縁域という3層構造で考えるのが一般的のようである（図 1.1）⁵⁾、⁶⁾。

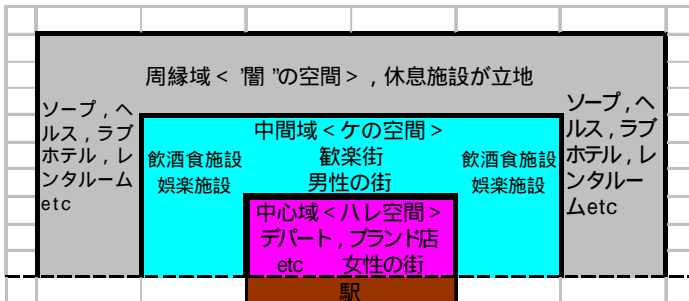


図 1.1 駅周辺の盛り場の三層構造（イメージ図）

*キーワード：観光・余暇、盛り場

**正員，株式会社環境創造

（京都市中京区新町通四條上ル小結町428 新町アイエスビル，TEL:075-254-8811，E-mail:oya@issrkyoto.or.jp）

北村は、ハレの空間は女性中心の街、ケの空間は男性中心の街であるが、近年の女性の社会進出に伴い「ケの空間にコジヤレたハレの空間が進出」しつつあると、近年の盛り場変遷の大きな要因についてふれている⁶⁾。本節では、「ケの空間」を「狭義の盛り場」と定義して、この狭義の盛り場空間とフーズクの位置関係について考察する。なお本稿の「フーズク店」は、風俗営業適正化法（以下風適法と略記する）で言う「店舗型風俗特殊営業」の中のソープランド、ファッションヘルス、ラブホテル等を主にイメージしている。

(2) フーズクの立地パターン

フーズクの立地パターンを、「空間的広がり（個店かフーズク街か）」と「盛り場との位置関係（盛り場の中・隣接か、離れているか）」の2軸でみると、4つのパターンに分類することができる（図1.2）。

		盛り場の	
		中・隣接して存在	（離れて）外に存在
空間的 広がり	塊・街		
	スポット		

: 盛り場 フーズク

図 1.2 フーズクの立地パターン

パターン1は盛り場と離れてフーズク街を形成するもので、旧遊郭がそのまま存続したものに多くみられるパターンである。大阪の飛田新地⁷⁾、岐阜県の金津園、滋賀県の雄琴等がこれに該当する。金津園、雄琴は共に著名なソープランドであり、盛り場とは独立に形成されそして盛り場の形成に失敗したという点で共通しているのが注目される。戦前の遊郭とは異なり、現在のフーズク街には盛り場を形成する能力が失われているのではあるまいか。

パターン2は、盛り場の中あるいは周縁にフーズク街を形成するもので、新宿歌舞伎町（東京）、ススキノ（札幌）、中州（福岡）、宗右衛門町ラブホ街等がこれに該当する。

パターン3は、盛り場の中にスポット的に存在するもので、最も多くみられるタイプである。フーズク店が増殖し、連続して立地するようになるとパターン2に移行すると考えられる。

パターン4は盛り場と離れて個店として営業するものであまり多くはみられない。都市郊外部にあるラブホテルがこれに該当するし、ひと昔前にみられた「もぐり売春⁸⁾」もこれに該当する。デリヘル（無店舗型性風俗特殊営業）はこのタイプの合法的な発展形態かもしれない⁹⁾。

2. 事例にみるフーズク店の立地状況

(1) 阪急東商店街堂山町界隈

阪急東商店街は、大阪梅田の阪急ターミナルから東に伸びる商店街である。新御堂筋につきあたるまでは普通の商店街であるが、新御堂筋を渡って堂山町界隈に入ると人通りも少なくなり、東商店街と交差する南北の路地にはフーズク店が目につくようになる。「こういう所にはフーズク店があるだろうな」と思う所には必ず存在するのには驚くほどである。特に網敷天神社の前の道は、フーズク店が連なってフーズク街化しているのがみとれる（図2.1、写真2.1~2.3）。堂山町界隈は、パターン2とパターン3の混在するまちとみることができる。



写真 2.1 ラブホ ソトル (図2.1のラブホ街にある)

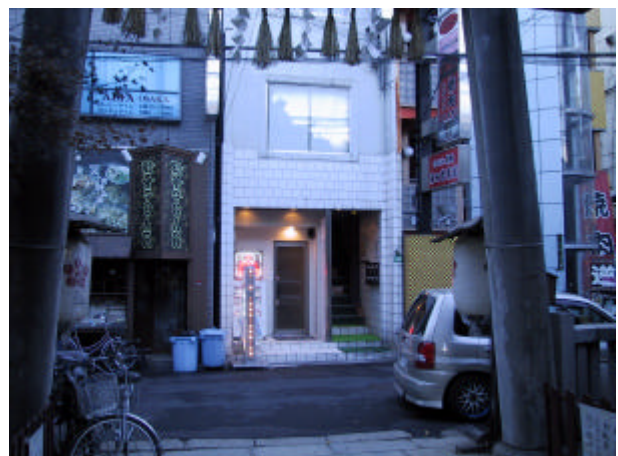


写真 2.2 神社正面にあるヘルス (神社境内より撮影)



— フーズク街 フーズク店 (個店)

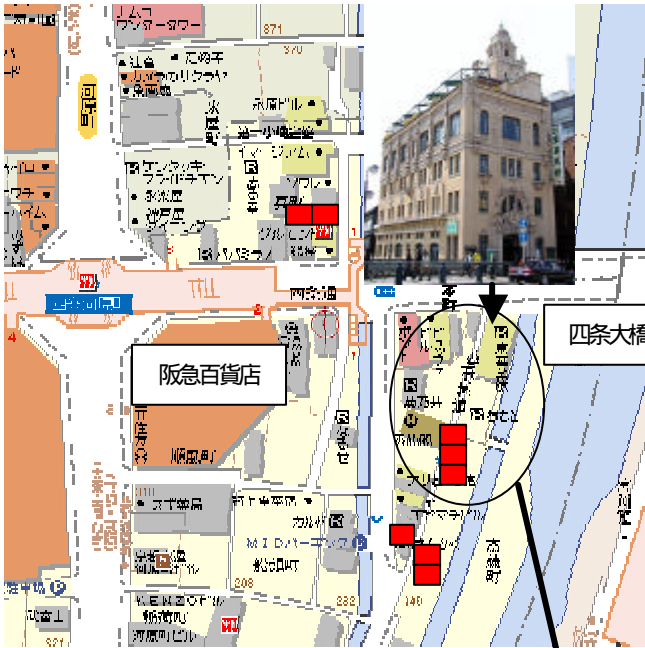
図 2.1 阪急東商店街堂山町界隈 (2006年)



写真 2.3 神社前の道の東商店街より南に立つフーズクビル (東商店街角より撮影)

(2) 京都西石垣町界限

京都の四条大橋西橋詰に立つ東華菜館はスパニッシュ様式の概観で著名だが、その西側を南に走る西石垣通を30メートルほど下ると、ファッションヘルスが連なっていることを知る人は少ないであろう(図2.2)。その様子を模式的に示したのが図2.3である。フーズク店がかたまっている立地しているにもかかわらず、先述の大阪堂山町界限とは異なって、フーズク街という感じはない。北の端が料亭に、南の端がスナックで抑えられ、あくまでも街の一部というたまたまのせいなのかもしれない。



：フーズク店
図 2.2 京都西石垣通界限 (2006)

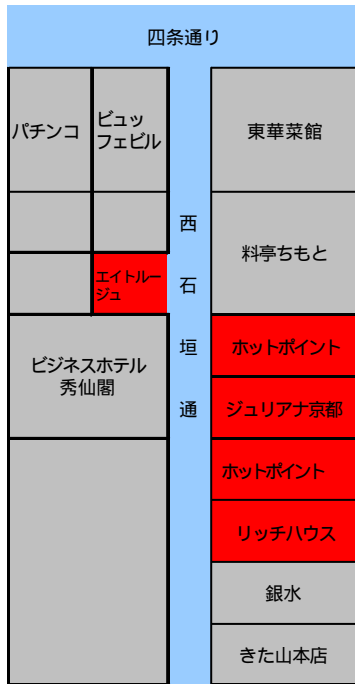
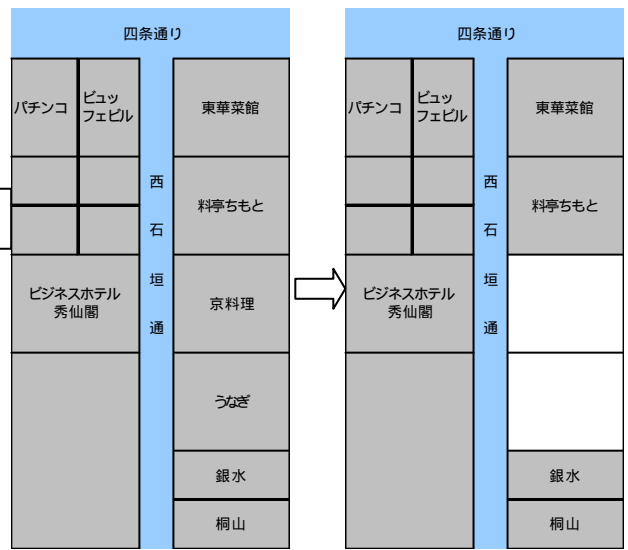


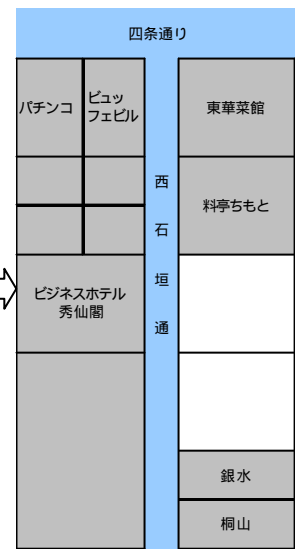
図 2.3 京都西石垣通界限模式図 (2006)

このフーズク店がいつから立地したか住宅地図で調べた¹⁰⁾結果を模式図で示したのが図 2.4 である。1991年までは西石垣通料亭の連なる風情のある小路であったが、92年には91年までであった京料理とうなぎの店が消えた。91年は土地バブルが崩壊した年であり、その影響があったのではなからうか。94年の地図から、うなぎ屋のあとが2軒のフーズク店に変わったことがわかる。97年には91年以降地図上では白地であった京料理の店のあとがフーズク店となり、ほぼ現在と同じ立地形態となった。

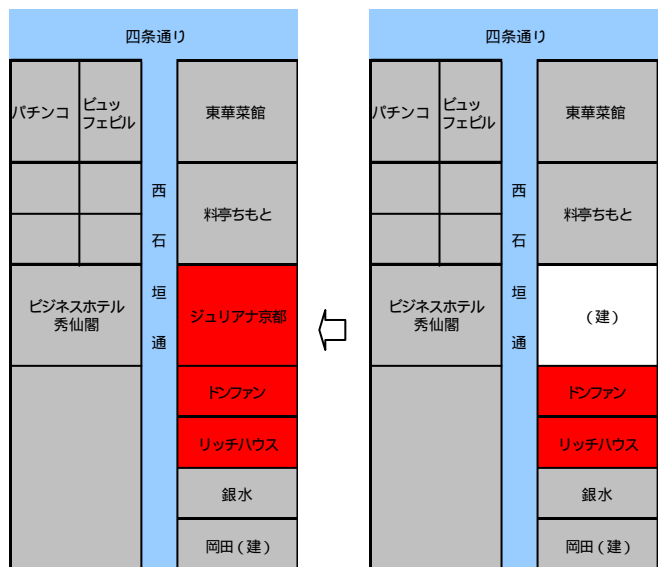
フーズク業界の中にも浮き沈みはあるのか、99年には97年まであったドンファンが消え、ジュリアナ京都は店舗面積を半分に縮小した。その代わりにホットポイントが同時に2店舗オープンしている。



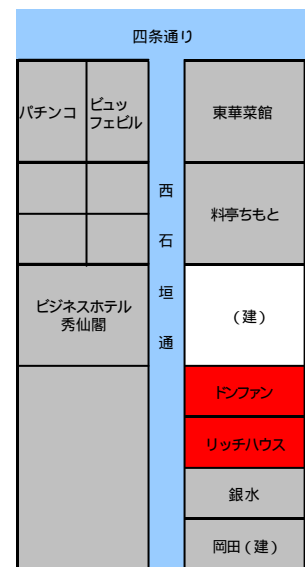
1991年



1992年

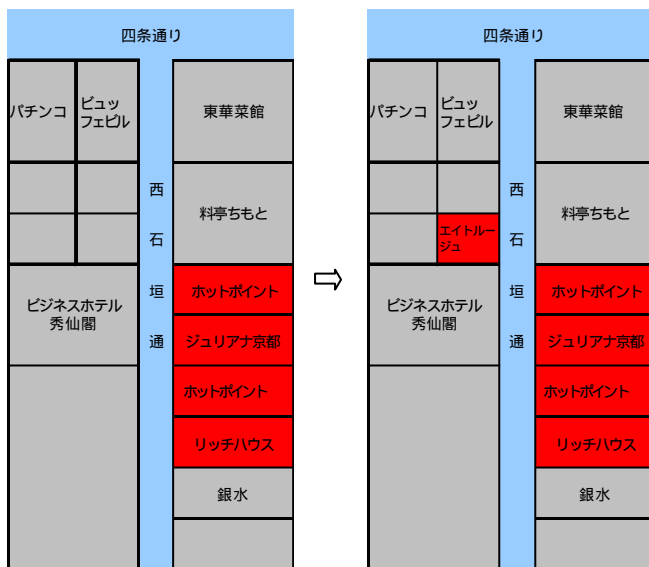


1997年



1994年

図 2.4 京都西石垣通界限の推移 (1991-1997)



1999年 2004年
 図 2.4 京都西石垣通境界の推移 (1999-2004)

(3) 事例からの考察

盛り場にフーゾクに対抗できるだけの元気がないと、盛り場はフーゾクにむしばまれてその活力を失う。盛り場に人通りが少なくなると、界限全体が荒れた雰囲気を漂わせるようになる。大阪堂山町界限の事例はそれを示しており、フーゾク店は盛り場にとって迷惑施設であると言っても間違いではなさそうである。京都の西石垣通にまだ荒れた雰囲気がないのは、西石垣通が文字通りの小路であり石畳で整備されていることもあって、人通りの少ないことがさほど気にならないためであると言えるかもしれない。フーゾク店の南の端に位置するスナック銀水は、1981年の住宅地図に既にその名前があり、おそらく30年以上続いている店ではあるまいか。“おなじみさん”ばかりで店の運営ができるので、フーゾク化の圧力によく対抗できるのかもしれない。京都西石垣通の事例は、「あっという間にフーゾク店は立地する」場合があることを示している。西石垣通がまだフーゾク街化を免れているのは、幸運によるものかもしれないのである。

結語

本稿ではフーゾクの立地パターンを4分類し、事例分析をおして、フーゾク店(個店)及びフーゾク街の立地のあり様について検討した。事例をみると、フーゾク店は盛り場にとって迷惑施設であると言っても間違いではなさそうである。都市観光にとってフーゾクが有効であるのは、フーゾクが持つ「かくし味」としての「悪所」のイメージであり、フーゾクが盛り場にとって「かくし味」的な存在に止まる限りにおいてのみ有効となると言えよう。

フーゾクは、それを必要とする「哀れな男達」と、フ

ーゾクを職業として選択する女達のために存在している。例えば高校中退程度の学力で、アーティストになるセンスもない女の子が、年収1000万円以上かせげる職業としてフーゾクは存在しているのである。完全分煙によって煙草を吸わない人への迷惑を大幅に減らすことができるように、盛り場に迷惑を及ぼさないフーゾク立地のあり方について検討することも必要と考える。本稿はまだまだプリミティブな段階に止まっているが、盛り場に関する研究の進歩と軌を一にしてフーゾク分野の研究も進歩することを期待して結語とする。

参考文献・補注

- 1) シャルル・ボードレル「タバコの薄命」より。訳は文庫2)所収の山田稔訳による。
- 2) ヴォルター・ベンヤミン「ボードレルにおける第二帝政期のパリ(野村修訳)」, ヴォルター・ベンヤミン著作集6, 晶文社, 1975, p96
- 3) 1980年代以降, 「風俗店」ではなく「フーゾク店」とカタカナ表記するのが通常となった(島本慶『なめだるま親方のフーゾク大全』(アスペクト)前書き)。
- 4) 売春防止法では, 「売春」とは, 対償を受け、又は受ける約束で、不特定の相手方と性交すること(第二条)と定義しているため, ファッションヘルスのようにオーラルセックスだけなら違法ではない。売春防止法が, 日本的なフーゾクの流行を促進した面がある。
- 5) 松沢光雄『繁華街を歩く 繁華街の構造分析と特性研究 東京編』, 総合ユニコム, 1986
- 6) 北村隆一『鉄道でまちづくり』, 学芸出版, 2004
- 7) 飛田新地は売春防止法制定前は遊郭であったが, 現在は「飛田料理組合」として営業している。風適化法の対象外であるが, 昔同様の売春サービスを提供している貴重な存在である。
- 8) 基本的に「見えない存在」であるためポン引きとよばれる斡旋業者が客と個店(個人)の間に介在するのが通常であった。
- 9) デリヘル急増の背景には携帯電話とインターネットの普及がある。IT時代のフーゾクといえるかもしれない。
- 10) 京都市中京区のゼンリン住宅地図及び吉田住宅地図を用いた。